

実体験

楽しむ

つながり

情報の  
取捨選択

## 【これから取り組んで行くこと】

- ・リアルな体験の支援。実体験が「好き・苦手」などの自己理解、意思決定につながる
- ・ICTの使い方を学べる環境。使い方を伴走してくれる支援や同世代の仲間からの学び
- ・幼児期からの「楽しむこと」「好き」を育む支援
- ・同世代をつなぐ役割、仲間との関係性を育む場づくり
- ・障害のある人もない人も一緒に活動できる地域の場
- ・早期から本人主体で支援を整理してくれる役割

- ・子育て支援。保護者の試行錯誤の伴走的なサポート
- ・情報だけでなく、本人の立場で、将来を見据えて今必要な事を保護者と一緒に考える支援
- ・ICTを含めた、こどもの「好き」に保護者が寄り添うための支援
- ・保護者が自由に参加できる柔軟なコミュニティ

## 課題

- ・実体験や生活体験の不足。体験が乏しいと「好き」「嫌い」がわかりにくくなり、働く動機や目的なども持ちにくくなる
- ・サービスが手厚くなった一方、地域とのつながりが薄くなっている
- ・ICTは欠かせないが、使い方の支援が慎重になりがち。SNSを使いこなすまでに時間がかかる
- ・仲間同士をつなぐ役割や場がない

- ・「どう遊んだらよいかわからない」など、子育ての戸惑い
- ・保護者がこどもと過ごす時間が限られ、サービス充実が支えになる一方、家庭で向き合うべきことと外部支援に任せることの境界が見えにくくなり、支援に頼る事が増えてきている
- ・子育ての不安から、こどもの自立の機会を妨げるような先回りをする場合がある
- ・情報は得られるが、こどもに本当に必要なことを見極めにくい

## 【これからも大切にしていきたいこと】

- ・好きなことで集まれる場、自分のことを安心して話せる人・場
- ・自分らしさを認める存在・本人の立場で考えてくれる存在
- ・自分なりに発信し、受け止めてもらうなど、「発信・相談して他者と一緒に問題を解決する経験」が自立につながる
- ・「得意」「好き」「乗り越える力」を育む支援

- ・保護者が葛藤や気持ちを出し合える場、ピアなつながり。悩みながらもこどもと向き合い歩んできた先輩保護者との出会い
- ・保護者の「気持ち」や「願い」を支える支援。保護者の課題に合わせた支援。
- ・保護者とこどもの信頼関係の構築。こどもの「好き」を保護者も一緒に行って楽しむことや興味を持つことの大切さ

本人支援

保護者支援

